

【大玉村教育フォーラムについて】

1月29日（月）18:30から「第9回大玉村教育フォーラム」を改善センターにて開催しました。

第1部では、まず4人のパネリストの方々からそれぞれの立場で学校支援や人材育成、地域コミュニティの活性化などに取り組んでいる事例などをご紹介していただきました。また、各々がこれから取り組んでみたいことについても提言していただきました。コーディネーターはその話題を受けて、大玉村の教育をさらに発展させていくために、保護者、地域住民が学校と連携・協働していくことがますます重要になってくる理由について、わかりやすく説明していただきました。

第2部では、第1部の提言を受けて「未来（あす）の大玉の教育を充実させるために、地域ぐるみ（家庭・学校・地域）ですべきこと」を小グループに分かれて自由に意見交換しました。それぞれ立場の違う方々が様々な視点で意見を出し合い交流することができました。

フォーラムの最後には、コミュニティ・スクール委員会の会長、副会長が「このような集まりが、大玉の文化を醸成する機会となっている。」「子どもを支えていることが、子どもにも支えられているという関係性を作り出している。」と今回のフォーラムのまとめを行いました。

パネリストの方々からのお話の要旨

●館下愛理氏（保護者・ボランティア代表・CS委員）

- ・子どもたちと親しく交流できることがボランティア活動の原動力となっている。また、地域住民や保護者が先生方と顔なじみになることは安心感につながる。子どもにとっても、核家族が増えている中、地域の大人と関われることは大切なことだと思う。
- ・公民館などで行っているサークル活動を、子どもたちが学校にいる日中に学校の空き教室でやってもらおう。休憩時間などに交流することもできるし、子どもの学び舎で大人も学ぶことで、学校を核とした地域づくりの一つになるのではないかな。

●齋藤雄一郎氏（会社役員・大玉村教育委員）

- ・今後人口減は確実となる中、企業は他の地域、国にコネクションを作っていく必要がある。そのために重要なのは、コミュニケーション能力だと思っている。AIにはできない、人と人をつなぐ能力が必要となるだろう。
- ・そのために企業としてできることは、子どもたちがいろいろな人達と関係を築けるような場を提供し、訓練の機会を作ること。スポーツによる他地域との交流活動を支援したり、大玉村でスポーツ大会をする際のスポンサーになったりというようなことで、子どもたちが環境の違う人たちとの関係を築ける訓練をする場を創設したい。

●矢吹吉信氏（あだたらの里直売所店長・CS委員）

- ・大玉村は自然、歴史、伝統、文化、人情にあふれている。また村の先人たちは技術・知恵という素晴らしいものを残してくれていることを後世に伝えたい。
- ・そのために、あだたらの里直売所を伝統料理や農業について学べる場所にしていきたいと思っ

ている。また、将来的には、農業について学ぶ「アグリ部」を中学校の部活動の一つにして、大玉村の農業の次世代を担う人材を育成していきたいと思っている。

●高橋 邑弥氏（高校生）

- ・おおたま学園という仕組みの中で地域の人とかかわりながら学んだことは、体験型学習や他のいろいろな活動にたくさんの方々が僕達のために行動してくださる姿から、地域とのつながりを意識するようになり、感謝の気持ちを持つことができたことである。また、登下校時の交流によってあいさつの習慣が身についたと思う。
- ・将来においては、地域の方と共に学んだ経験を生かし、村の子どもたちや教育現場に携わり、よりよい教育環境や社会環境を提供することで、よりよい人づくりに貢献したい。また、そのために自分に何ができるのか考え、今できることを実行していきたいと思う。

コーディネーターのお話の要旨

●首藤 文彦氏（県北教育事務所主任社会教育主事）

- ・大玉村では、すでに様々な教育的取り組みがなされているが、さらに一步進めるためには、地域と学校がさらに連携・協働して「地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり」という視点で教育活動に取り組んでいく必要がある。そのために新しく導入された仕組みが「地域学校協働活動」である。
- ・「地域学校協働活動」を推進していくポイントとなるのは、以下のようなことである。
 - 住民一人一人が当事者意識を持つこと（「おたがいさま」の精神）。
 - 育成すべき資質能力をはっきりさせて、それを出来るだけみんなで共有する。
 - 地域への理解を深めることが、地域への愛着、誇りへつながっていく。
 - 学びと活動を循環させ、それを継続させることが、地域の将来を担う人材育成につながる。



第1部のパネルディスカッションで自分の思いを発表するパネリストの皆さん。



第2部では、参加者が1班7名程度のグループに分かれて、意見交換しました。

第2部のフリートークでのご意見から

幼稚園、小学校、中学校の先生方や保護者、地域住民が混在したグループを作り、「未来（あす）の大玉の教育を充実させるために、地域ぐるみ（家庭・学校・地域）ですべきこと」をテーマに話し合いました。フリートークには50分ほど時間を確保しましたが、どの班でも熱心な熟議が展開され、もっと時間が欲しかったとの反省も寄せられました。皆様からいただいたご意見をまとめたものを簡単にご紹介します。

●家庭ですべきこと

・あいさつ、会話、コミュニケーション、生活習慣や家庭学習の定着、地域との関わり方など。

●学校ですべきこと

・学校の開放、地域との協働、他校や異学年との交流など。

●地域ですべきこと

・子どもも参加する地域行事の開催、あいさつ、農業体験、学校に積極的に関わる、地元の産業を充実させ定住人口を増やすこと、住民同士の交流、伝統や文化の継承など。

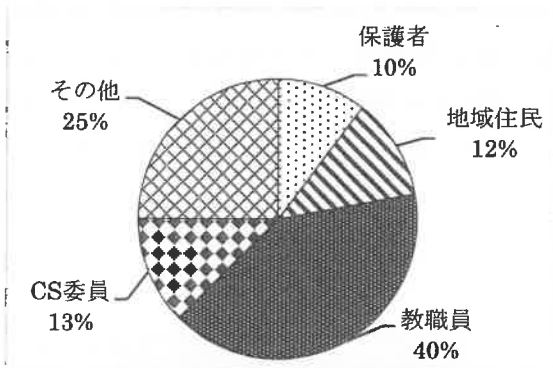
●その他共通して取り組むべきこと

- ・情報共有（情報発信）
- ・相互理解（コミュニケーション）
- ・大玉村のよさを知り伝承するなど。

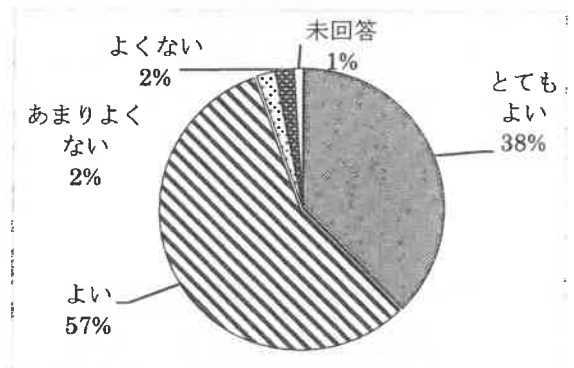
アンケートについて

今回のフォーラムには、事務局も含め 150 名の参加がありました。特に学校の先生方には大変多くのご参加をいただき、先生方の教育に対する熱意を感じることができました。フォーラム終了後に行ったアンケートには 68%の方にご協力いただきました。結果をみると、フォーラムの内容については、おおむね「よかった」とあり、教育フォーラムが参加者の皆様にとってプラスになったものとして評価できると思われます。また、自由記述でもさまざまなご意見を寄せていただきましたので、一部ご紹介いたします。

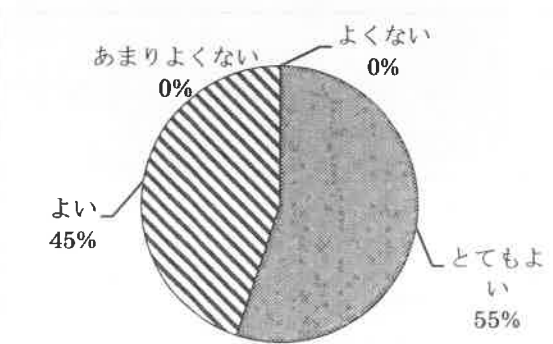
フォーラム参加者内訳



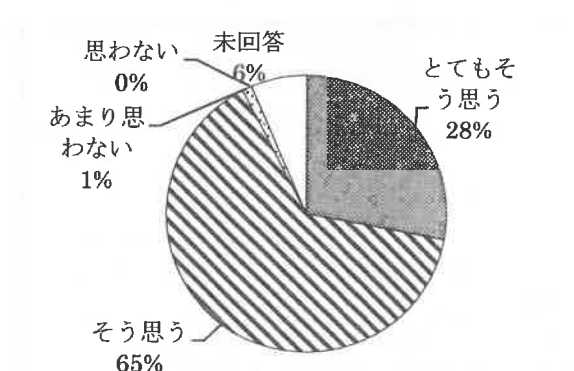
第1部の発表はいかがでしたか？



第2部のフ2部のリートークはいかがでしたか？



今日の話し合いから、自分でも何か始めてみたいと思いましたか？



アンケートの自由記述から

第1部の発表について

- ・それぞれのお立場からのご意見をうかがうことができ、とてもよかったです。発表者の皆様の郷土愛を感じました。(教職員)
- ・それぞれの思いが伝わった。積極的な提案が良かった。(地域住民)

第2部のフリートークについて

- ・いろいろな立場の方の話が聞けて大変良かったです。ただ、もっと保護者、地域住民の皆さんが加われば、さらに良い案が出るのでは？(保護者)
- ・教育関係者以外の地域住民の言葉はとても新鮮でした。いろいろな可能性が発見できて、とても有意義な時間となりました。(教職員)

その他感想など

- ・いろいろな人との交流でコミュニケーションを図っていきたい。(保護者)
- ・今日の話し合いで出たことを、今後の教育活動に取り入れていきたいと思いました。(教職員)
- ・地域に持ち帰って、地域でフリートークをしてみたい。(地域住民)
- ・フリートークで学校の先生方が求めていることについて今までより理解を深めることができたと思う。地域に点在している力を、もっともっと結集させることができるような取り組みが必要だと思った。(その他)

【地域学校協働活動に関係した事業について】

地域学校協働活動事業推進フォーラムについて [平成30年1月31日(水)]

ビッグパレットふくしまで開催された「地域学校協働活動事業推進フォーラム」に、CS委員会会長、地域住民、コーディネーターなど7名で参加し、大玉村が今年度から推進している「地域学校協働活動」についてポスターセッションによる発表を行うとともに、他地域の取り組み事例を学びました。

ボランティア研修会及び情報交換会 [平成30年2月22日(木)]

学校支援活動、放課後子ども教室に関わるボランティアを対象に研修会及び情報交換会を開催したところ、20名以上のご参加をいただきました。

研修会では「子どもたちとのかかわり方について」とのテーマで講話を受講した後、7名程度の小グループに分かれ、情報交換を行いました。ボランティア活動に関する思いなどを自由に話し合っていました。



地域学校協働事業活動は、地域と学校が今まで以上に協働関係を築いていくための事業で、コミュニティ・スクールとは車の両輪に例えられています。互いに連携し合って子どもたちの成長にとっての最善策を常に考え行動に移していきたいと思えます。これからもよろしくお願いたします。
コミュニティ・スクール ディレクター 伊藤由美子

H30/3/9 発行 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
(事務局：大玉村教育委員会内 連絡先：48-3138)

